

# 協会を支える分科会活動

分科会運営委員会 委員長 奥山 喜久夫

## 1. はじめに

分科会活動は、POWTEX®（国際粉体工業展）と並んで、協会の中心的な活動と位置付けられており、2023年度は21分科会体制で活動をしてきた。分科会活動は、協会の企業会員および個人会員の交流の場や非会員企業の入会に繋がる場として大変重要であり、分科会運営委員会は分科会の運営方針の統括、新設分科会の立案と計画、分科会の分割および併合などの検討を行い、分科会が持続的に運営および活動されるようにサポートを行っている。委員の構成は、委員長：奥山喜久夫、副委員長：浅井信義、鈴木康夫、委員：秋山聡、アドバイザー：山田幸良の5名である（敬称略）。ここでは主として、2023年度の分科会活動の全体的な状況、分科会運営委員会の活動の概要および2024年度の活動の方向性を述べる。

## 2. 2023年度の分科会活動の概要および運営委員会の活動

### 2-1 全般的状況

新型コロナウイルス感染症の流行が沈静化するに伴って、各分科会は分科会本会合をオンサイト開催およびWeb併用によるハイブリッド開催で実施し、現地開催での見学会に加え、交流会の開催も増えた。本年度開催の本会合は延べ50回、参加者総数は約1,700名であり、新型コロナウイルス感染症流行前の水準に戻った。ほぼすべての分科会で2回以上の本会合が開催されており、なかでも粉砕分科会および粉体シミュレーション技術利用分科会は4回の本会合を開催し活発である。また、晶析、粒子加工技術、粉体シミュレーション技術利用、微粒子ナノテクノロジーの4分科会はINCHEM TOKYO 2023にあわせてIPNF2023にて合同分科会を開催した。

### 2-2 拡大分科会運営委員会および分科会連絡会議の運営

毎年度開催している拡大分科会運営委員会（2023年8月：京都）および分科会連絡会議（2024年1月：名古屋）も、Web併用によるハイブリッ

ド会議として開催されたが、昨年度と比べ多くの方が会場での参加となり、分科会活動の進め方および課題が議論された。

拡大分科会運営委員会では、各分科会から本年度事業計画の見直しが説明され、粉砕分科会より、前年度に台湾で開催された海外分科会の開催状況が報告されたほか、協会のホームページに掲載する分科会のロードマップの全面改訂版の作成および修正などについて議論が行われた。また、分科会運営相談会を、分級ふるい分け分科会、乾燥分科会、微粒子ナノテクノロジー分科会、食品粉体技術分科会を対象に実施し、分科会の活動状況および課題について、分科会の主要メンバーと分科会運営委員会の間で意見交換を行った。

分科会連絡会議では、各分科会から2023年度の活動状況、2024年度の事業計画と運営方針・課題などの説明が行われた（写真-1）。また、表-1、2のように、分科会活動に貢献した10名の方々が第19回分科会功労賞を、また長年にわたり委員会・部門活動に貢献した3名の方々が第10回委員会・部門功労賞を受賞された。



写真-1 分科会運営委員会連絡会議の様子

### 2-3 分科会の教育部門やPOWTEX®（国際粉体工業展）での活動

分科会活動で得た有益な情報・知見を外部に発信する場として粉体技術専門講座が開催されている。本年度は、晶析分科会が開催した。

また、粉体技術者養成講座は、教育部門主催と分科会主催で開催されているが、教育部門では、「粉砕」（粉砕分科会）、「乾燥」（乾燥分科会）、「集じん」（集じん分科会）、「混練」（混合・成形分科会）、「粒子加工」（粒子加工技術分科会）、「ろ過」

表-1 2023年度 第19回分科会功労賞受賞者一覧

氏名	所属	分科会
上野明紀	(株)アーステクニカ	粉碎
金子雅哉	味の素(株)	晶析
倉本拓司	(株)ノーケン	粉体ハンドリング
小澤和三	日清エンジニアリング(株)	粉体シミュレーション技術利用
長洋光	荏原環境プラント(株)	環境エネルギー・流動化
豊田智淳	シオノギファーマ(株)	粒子加工技術
中根隆一	アマノ(株)	集じん
水野裕太	高砂工業(株)	リサイクル技術
山本洋一	エステック(株)	輸送
渡邊周	(株)日清製粉グループ本社	計装測定

(氏名50音順)

表-2 2023年度 第10回委員会・部門功労賞受賞者一覧

氏名	所属	委員会・部門
池田英幸	スペクトリス(株)マルバーン・バナリティカル事業部	標準粉体
河島睦泰	(株)栗本鐵工所	「粉体技術」編集
越間研吾	(株)環境衛生研究所	集じん技術

(氏名50音順)

(湿式プロセス分科会)の6講座が開催され、分科会主催では、「計測・測定」を、計装測定分科会、が開催した。また、POWTEX<sup>®</sup>2023(国際粉体工業展大阪)併催行事において、分級ふるい分け分科会が「分級」、また集じん分科会が「集じん」のセミナーを実施した。

#### 2-4 分科会運営委員会の活動など

当初の計画通り4回の委員会を開催し(うち1回は拡大分科会運営委員会)、以下のような検討を行った。

- (i) 分科会活動の支援などに関する検討、特に2024年度の粉体ハンドリング分科会と輸送分科会との併合に向けての対応
- (ii) 拡大分科会運営委員会では分科会活動の紹介と分科会の組織の強化などへの対応
- (iii) 新型コロナウイルス感染症流行下における分科会の活動における「オンサイト開催」と「Webセミナー開催」の進め方
- (iv) 分科会のロードマップの全面改訂などについて議論した。

### 3. 2024年度の分科会運営委員会活動の方向性

#### ①分科会の体制・組織の強化

分科会運営相談会などを通して分科会体制の改

善が必要な場合は、各分科会と協力して組織および運営の充実化を図る。将来必要となる粉体技術に応じて新しい分科会の立ち上げや、併合などについて議論する。さらに、本年度全面改訂された分科会ロードマップについては、必要に応じて分科会と共同で更新して改訂を行う。

#### ②活発な分科会活動と開催報告

各分科会での本会合の開催は原則年2回以上であるが、粉体技術者養成講座や専門講座を含むことで、状況に応じ無理のない範囲で実施し、本会合開催後の交流会も感染対策に配慮して開催いただく。海外で開催された分科会については、拡大分科会運営委員会や連絡会議での報告をお願いする。

#### ③粉体技術者養成講座の開催と専門講座の着実な実施

粉体技術者養成講座は、分科会が関連する基礎的な粉体技術を技術者に伝承することを目的としており、引き続き教育部門主催または分科会開催としていただく。専門講座は、分科会活動で得た最新の技術的知見などを集約し広める場であり、数年に一度程度開催いただく。

#### ④新入会員のフォローとメルマガの配信への協力

新入会員が希望する分科会を登録した場合、新入会員のフォローを総務委員会、海外交流委員会と連携して行う。また、メルマガ配信数の拡大のために、個人情報取り扱いの承諾を得られた分科会の本会合参加者リストを総務委員会に提出して、広報改革の一助として、未入会企業の入会に繋がるようにする。

### 4. おわりに

2024年度より、「輸送分科会」と「粉体ハンドリング分科会」が併合して「粉体ハンドリング分科会」として活動することになり、20の分科会体制となる。分科会運営委員会は、この新粉体ハンドリング分科会の活動をはじめ、各分科会活動の全体的な検討を行い、協会の中心的活動として将来に向かって順調に発展するように議論を進めたいと考えている。

おくやま きくお  
奥山 喜久夫  
広島大学名誉教授

E-mail: okuyama@hiroshima-u.ac.jp